

第35回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1997年5月30日（金）10：30～11：15
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
 （事務局等）村田原子力調査室長
 池本専門委員
 田中核融合開発室長
 核融合開発室 渡辺
 原子力調査室 杉本、新井、宇賀地
4. 議 題
 (1) 第4回ITER計画懇談会の結果について
 (2) その他
5. 配布資料
 資料1 第34回原子力委員会定例会議議事録（案）
 資料2 第4回ITER計画懇談会の結果について
6. 審議事項
 (1) 議事録の確認
 事務局作成の資料1第34回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
 (2) 第4回ITER計画懇談会の結果について
 標記の件について、事務局より資料2に基づき、会議の概要等について報告があった。
 これに対し委員より、
 - ・ ITERにトカマク型を採用することが最もよいということについて、核融合会議の場で専門的見地からは結論が得られているのかもしれないが、本懇談会で検討する際には、慣性核融合など他の核融合分野の専門家の意見を聞くことも大切
 - ・ 実験炉の目的として、自己点火条件の達成という物理的な面に焦点が移りがちだが、工学的な側面があることに留意することが大切
 - ・ 実験炉、原型炉、実証炉と続く開発のステップを、核融合研究開発において考える場合、国際的な関係においてスムーズに進むかどうかの観点も重要
 - ・ オールジャパンとして材料開発を進めていくことが重要であり、体制を整えて重点的に行っていく必要がある。ITERは、材料開発の観点から、照射炉としての性格ももっていることが重要
 - ・ 自己点火条件の達成は、計画の成功・失敗を判断する要素になるだろうが、エネルギー源としての成立性の評価とは切り離して考えるべきではないか
 - ・ 計画が3年間延びた場合には、その期間を有効に活用することが重要であり、研究計画の評価を適切に行い、建設に向けての取組につなげていくようにしていくべき等 의견があった。